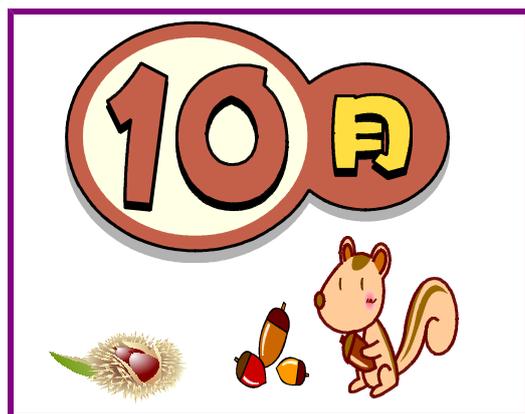


# めぐみイエス・キリスト教会

2020年10月11日(日)第二主日礼拝  
週報「通算第527号」



## 2020年標題聖句

### 第I テサロニケ5章16節~18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時~11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時~(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2020年10月11日 第二主日礼拝 午前10時  
司会 鈴木竜実牧師 奏楽 佐野みゆきさん

### ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌458「光の高地に」 p. 734

【交読文】 No.60 ヨハネの黙示録第21章抜粋 p. 928

【賛美Ⅱ】 新聖歌332「主はまことのぶどうの木」 p. 528

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美No.18「聖なるお方」

【聖書朗読】 使徒の働き5章25節～33節(2017新約p. 241下段)

【礼拝説教】 《再び最高法院へ》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

### ※聖書箇所(使徒の働き5章25節～33節)

5:25 そこへ、ある人がやって来て、「ご覧ください。あなたがたが牢に入れた者たちが、宮の中に立って人々を教えています」と告げた。

5:26 そこで、宮の守衛長は下役たちと一緒に出て行き、使徒たちを連れて来たが、手荒なことはしなかった。人々に石で打たれるのを恐れたのである。

5:27 彼らが使徒たちを連れて来て最高法院の中に立たせると、大祭司は使徒たちを尋問した。

5:28 「あの名によって教えるはならないと厳しく命じておいたではないか。それなのに、何ということだ。おまえたちはエルサレム中に自分たち

の教えを広めてしまった。そして、あの人の血の責任をわれわれに負わせようとしている。」

5:29 しかし、ペテロと使徒たちは答えた。「人に従うより、神に従うべきです。」

5:30 私たちの父祖の神は、あなたがたが木にかけて殺したイエスを、よみがえらせました。

5:31 神は、イスラエルを悔い改めさせ、罪の赦しを与えるために、このイエスを導き手、また救い主として、ご自分の右に上げられました。

5:32 私たちはこれらのことの証人です。神がご自分に従う者たちにお与えになった聖霊も証人です。」

5:33 これを聞いて、彼らは怒り狂い、使徒たちを殺そうと考えた。

●ポイント1. 一回目の最高法院議会とは？

※使徒の働き4章1節～7節「使徒ペテロとヨハネ」(新約p.238下段最初)

※使徒の働き4章18節～21節「大祭司の命令は」(新約p.239下段右側)

●ポイント2. 「あの人の血の責任を我々に負わせ～」とは？

※マタイの福音書27章24節～25節「二度目の政治裁判」(新約p.61上段)

27:24 ピラトは、語ることが何の役にも立たず、かえって暴動になりそうなを見て、水を取り、群衆の目の前で手を洗って言った。「この人の血について私には責任がない。おまえたちで始末するがよい。」

27:25 すると、民はみな答えた。「その人の血は私たちや私たちの子どもらの上に。」

●ポイント3. 「人に従うより神に従うべき」とは？

※使徒の働き5章19節～20節「主の使いの命令」(新約p.241下段)

5:19 所が、夜、主の使いが牢の戸を開け、彼らを連れ出し、5:20 「行って宮の中に立ち、人々にこの命の言葉をすべて語りなさい」と言った。

※ローマ人への手紙13章1節「使徒パウロの勧め」(新約p.318下段)

13:1 人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられているからです。

## ◎先週のメッセージの概要【十二使徒の解放(見張りの兵士たち)】

《ついにユダヤ最高法院が動き出しました。彼らはねたみに燃え、宮の守衛長に命じて、十二使徒全員を捕らえて留置場に入れたのです。

ところが、その夜、御使いがやって来て牢の戸を開け、使徒全員を連れ出したのです。そして「行って宮の中に立ち、人々にこの命の言葉をすべて語りなさい。」と、彼らに命じ、彼らを連れ出すと、元のようにカギを掛けたのです。それは、見張りのユダヤ人兵士たちの為でありました。

さて紀元 46 年の大飢饉の時、国主ヘロデ・アンティパスは、ユダヤ人の機嫌を取る為に、使徒ヤコブを捕らえ牢に入れ剣で殺したのです。ヤコブは使徒の最初の殉教者になりました。そしてさらに、アンティパスはシモン・ペテロをも捕らえました。そして、4 人一組の兵士 4 組に引き渡して監視させました。教会は、以前にも増して、熱心に主に祈りました。

そして、ペテロは御使いによって奇跡的に救い出されるのです。さて、主イエスの時はどうであったのかと言いますと、最高法院は、ローマ総督ピラトに墓の見張りを引き受けさせます。よって 4 人のローマ兵が、主イエスが葬られた新しい園の墓に見張りとして付く事になります。3 日目の朝、天から 2 人の御使いが降りて来て、封印してあった丸い墓石を、蹴ってころがします。その場面に 4 人のローマ兵は居合わせたのです。

主イエスの復活を一番最初に目撃したのは、ユダヤ人ではなく異邦人のローマ兵でした。彼らは、総督ピラトの所ではなく、大祭司の所に駆けつけます。なぜなら生死がかかっていたからです。4 人のローマ兵は、最高法院によって守られ、彼らは処刑されることなく、自由の身とされるのです。実は、ここにも神様の恵みと哀れみが表わされているのです。

しかし、ペテロの時には、すべてのカギが掛けられていたにも関わらず、16 人の兵士は、国主アンティパスによって処刑されてしまいます。

バプテスマのヨハネを処刑し、主イエスをローマ総督に引き渡しただけでなく、国主アンティパスは、さらに罪に罪を重ねて行ったのです。》

## ◎お知らせ

※次回礼拝は 10 月 18 日(日)教会にて行ないます。午後礼拝はありません。また聖書の学びと祈り会は、年内は各家庭にて行ないます。